

(様式3)

会 議 の 要 旨 (議 事 録)

会 議 の 名 称	平成30年度第2回鳥栖市図書館運営協議会		
開 催 日 時	平成31年2月22日 (金曜日) 10時30分～12時	開 催 場 所	鳥栖市立図書館視聴覚室
出 席 者 数	委員 7人 (うち1人代理出席) 事務局 6人	傍 聴 人 数	0人
議 題	(1) 平成30年度経過報告について (2) 子ども読書活動推進計画の進捗管理について (3) 平成31年度事業計画について (4) その他報告事項について		
配 付 資 料	平成30年度第2回鳥栖市図書館運営協議会 資料 [内容] ・鳥栖市図書館運営協議会委員名簿 ・平成30年度鳥栖市立図書館事業経過報告及び今後の予定 ・鳥栖市子ども読書活動推進計画の進捗状況【平成30年4月～平成31年2月】 ・平成31年度鳥栖市立図書館事業計画 ・その他の報告事項		
所 管 課	(課名) 生涯学習課 図書係 (電話番号) 85-3630		

議 事 録

1 開 会

- 事務局（竹下生涯学習課参事）
 - ・課長（館長）の代理で司会を務める
 - ・委員2名欠席（うち1名は代理出席）の報告
 - ・委員長が20分遅れでの出席の報告

◎教育長あいさつ

2 議 事

○成富副委員長（代理）により議事進行

議題（1）平成30年度経過報告について

- 事務局説明
 - ・資料の1～2ページに基づき説明。
- 内野委員長により議事進行（交代）
- 委員
 - ・市議会9月定例会で電子書籍についての一般質問があっているが、利用者からの要望はないのか。
- 事務局
 - ・今のところ要望はない。
- 委員
 - ・郷土資料のデジタル化やウェブでの公開は考えているか。
- 事務局
 - ・郷土資料のデジタル化は市文化財係が企画していたが、昨年度の庁内会議で見送りとなっている。資料の中には替えがきかない物もあり、図書館としても所蔵する郷土資料のデジタル化を検討したい。
- 委員
 - ・文部科学省のウェブサイトには郷土・歴史資料デジタル化の調査報告があるので参考にしてもらいたい。
- 委員長
 - ・紙媒体の劣化をどう防ぐかは難しい。資料の寄贈を受けようにも収容スペースに限りもある。予算の確保が厳しいこともあるだろうが、資料のデジタル化は早急に取り組むべき課題であろう。

議題（２）子ども読書活動推進計画の進捗管理について

●事務局説明

- ・資料の３～８ページに基づき説明。

○委員

- ・子どもが小さいころから読み聞かせをしてもらう環境にあると、読書率も学力も高いことが様々な研究において明らかになっている。家読の推進にはやはりブックスタート事業が最も効果的であり、昔から家読を推進している小郡市では１０か月検診で行っている。予算獲得が課題だろうが、計画と関連付けてぜひ行ってもらいたい。

●事務局

- ・鳥栖市は以前こども育成課の事業としてブックスタート事業に取り組んでいたが、現在は行われていない。効果も証明されているので、図書館主催事業としての取り組みを改めて検討したい。

○委員長

- ・ブックスタート事業については、絵本を見て子どもが理解できているのか大人には解らないので、価値が見いだせないという意見もある。ベストセラーになっている新井紀子「教科書が読めない子どもたち」によると、子どもの３０～４０パーセントは教科書の内容を理解できていない状況とある。紙媒体から視聴覚媒体に流れているのが現状であり、強制的に環境づくりをしないといけない。保護者も、テレビやスマホに子守りをさせるのではなく、家読により時間を共有すれば、子どもの成長も効果も実感する。同じ本と一緒に読んでも良いし、違う本を読んでお互い質問し合うのも良い。

○委員

- ・学校では様々な理由で不登校の児童が増えているが、子どもたちには読書をすることで情報を得ていろんな世界があることを知ってほしい。教育機関や行政機関のみならずいろんな団体や部署が連携して、本とつなげられるような取り組みはできないだろうか。

◎教育長

- ・整備することは可能と考える。私が現役教員のころ、保健室に本を置いていたら保健室登校の子どもが読んでいた。不登校で遅れた分を取り戻そうと本人も周りも頑張りすぎるが、本をゆっくり読むという時間も必要なのではないか。図書館で選書した本をみらい（学校適応指導教室）などへ置くと良いのではないかと思う。学校図書館のシステム化は、バーコード貼りや入力が非常に大変な作業でハードルが高いと考えていたが、大規模な学校には必要不可欠である。学校図書館について意見をいただきたい。

○委員長

- ・システム化して将来的に市全体の図書館がネットワークでつながれば機能的である。全国読書調査によると、小・中学生の読書量は順調に増えてきたが、高校生の読書量はますます減っている。しかし、例えばSFなど興味を持っているジャンルの本は、自分で購入してでも読む。発言の苦手な生徒も、得意分野を聞くと解説までしてくれる。個人の興味を引き出せば、読書の推進につながる。小さいときに紙媒体の絵本からスタートして、いずれは電子化へというのは人間の発達機能からすると良いことと思う。

○委員

- ・小郡市は10年ほど前に公共図書館と学校図書館間のネットワークを構築している。調べ学習の時に同じ本が不足するので、一度に必要な分集められるなど資源共有の効果は大きい。また、図書館が動くので、教師が動かなくてよく授業に集中できる。小郡市の事例を参考にしてください。

○内野委員長

- ・調べ学習で視野が広がれば、本の利用にもつながる。

○委員

- ・家読の推進は家庭に余裕がないと難しいと感じる。虐待や貧困の家庭では読書はランク外で、その家庭にそこまでお願いするのは難しい。図書館が市直営ならば、福祉と連携して状況を把握したうえでアプローチすることが望ましい。地区毎の状況のデータをもらい、朝読のボランティアや学童保育に依頼するのも良いと思う。

◎教育長

- ・中学校も昨年度から全校で読み聞かせをしている。

○委員

- ・地域の方に月に1回程度来ていただいている。子どもたちは楽しみにしており、中学校でも必要と考える。

◎教育長

- ・家庭環境は、地域や学校によって異なる。虐待や貧困のランク外の家庭を引き上げるのは容易でないが、根気強く行っていくしかない。ブックスタートや家読の推進について、厳しい現状であるが、実態を踏まえて考えたい。騒がしかった市内の中学校が、本の力で落ち着きを取り戻した事例があり、本の力は改めてすごいと思う。

○委員

- ・私は人形劇サークルを長いこと続けてきたが、学校によって雰囲気は異なると感じる。以前は騒がしかったのに、ある時から急に静かになった学校もある。

◎教育長

- ・子どもたちは教師が機械的に大声で言っても聞かない。私が新人教師に常に言っているのは、言葉に軽重をつけること。経験豊富な教師の指導で子どもがずっと落ち着くことがある。
読み聞かせを全校で行う理由の一つは、子どもたちを落ち着かせるため。発達障害の子どもが増えているのが現状であり、落ち着かない子どもと本をつなげたい。

○委員

- ・市内にはボランティア団体が百数十あるので、学校の方からも協力を投げかけて欲しい。

◎教育長

- ・非常にありがたい話である。これからも地域にお願いしていくし、地域からも学校に入ってきてほしい。

○委員

- ・本を選ぶとき、図書館に子どもを連れてこないと選べないことがある。
子どもだけでは校区外の図書館に行けないし、学校図書館も開いている時間が短いので利用しづらい。また、まちづくり推進センターの図書コーナーはほとんどが大人向けの本なので、子ども向けの本も置いてほしい。

●事務局

- ・まちづくり推進センターへは市立図書館の除籍本を配布しているが、センター職員が選ぶためどうしても大人向けの本が多くなる傾向にある。センターのスペースの問題もあるが、次回からは図書館の児童担当司書が選書した本も置いてもらうよう調整を試みる。

議題（３）平成31年度事業計画について

●事務局説明

- ・資料の9ページに基づき説明。

議題（４）その他報告事項について

●事務局

- ・3月からのデイジー図書の運用開始を報告